

# のアルバム

## びわ湖の環境保全を考えました

あやめ浜でヨシ群落再生・松林保全イベントが開催され、小雨の中 200 人以上が参加し、ヨシの植栽とあやめ浜のごみ拾いが行われました。

このイベントは、ヨシがびわ湖の環境保全と生物にとって大切な植物になることを知ってもらう機会として「びわ湖の水と地域の環境を守る会」が毎年実施。

イベントの最後には、おにぎりと、中主漁業協同組合からワカサギの天ぷらが提供され、びわ湖よし笛アンサンブルによるヨシ笛の演奏が披露されました。

びわ湖の現状を知り、びわ湖の大切さを再確認する一日となりました。

▼ 11月7日 あやめ浜



▼ 10月28日 市役所



## 社会への第一歩 就労体験！

市役所で「障がい者就労体験事業」を実施しました。

この事業は、就労を希望する障がいのある人の「はたらく場」や企業等での就労準備として必要な「実習・体験の場」が少ないことから、作業所等で働いておられる人や特別支援学校の生徒への進路指導の一助となるよう平成 22 年度から実施しています。

今年度は、7 コース 13 日間の体験事業を行い、この日は、県立野洲養護学校の縄田唯衣なわた ゆいさんが「広報やす」11 月号と「市議会だより」の郵送準備の業務を体験。広報紙の封入や封筒へのスタンプを押す作業を行いました。

唯衣さんは、「この体験を通して、働くということへのイメージを持つことができた。今後、就職を考えていく上で参考にしたいです。」と話されていました。

## 重さ当てクイズにチャレンジ！

北野小学校で学校応援団が企画した「学級園で育った巨大カボチャの重さ当てクイズ」が開催（10月12日～26日）されました。

このクイズ企画は、学校応援団の皆さんが育てたカボチャの重さを子どもたちが予想し、当選者にはひみつのプレゼントが渡されるというものです。

「こんなに大きいカボチャは生まれて初めて見た！とっても重たそう！」とみんなで仲良く相談しながら、クイズにチャレンジ。10月29日に昼の放送で正解が発表されたカボチャの重さはなんと、31 kg！223 人の応募者の中から 2 人が正解しました。

次回はどんなイベントが企画されるか楽しみです！

▼ 10月21日 北野小学校



# 歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

195

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

## 野洲を拠点とした三上藩 和泉に拠点を移した吉見藩

「藩」とは、大名が支配した地域と、それを治める組織を指す用語です。

野洲には、江戸時代から明治時代の初めにかけて三上村に拠点を置いた三上藩がありました。藩主は遠藤氏で石高（米の生産量）は時期によって異なりますが、江戸時代の終わりには1万2000石ありました。

三上藩の成り立ちは、江戸時代の元禄11（1698）年にさかのぼります。これは、常陸・下野国（茨城県・栃木県）に領地を持っていた初代藩主の遠藤胤親が江戸幕府によって近江国への領地替えを命じられ、藩の拠点である陣屋（屋敷）を野洲郡三上村に設けたことに始まります。

その後も遠藤氏の支配は続き、6代藩主の遠藤胤城の時に明治を迎えました。

明治2（1869）年、胤城は明治政府により三上藩知事に任命されますが、同3（1870）年に陣屋を三上から和泉国（大阪府）吉見へ移転させたため、以後は「吉見藩」とよびました。

さらに、明治4（1871）年に藩を廃止して新たに府県を設置する政策である廃藩置県が実施されたことで吉見藩は消滅し、遠藤氏の支配は終わりました。

令和2年は三上より吉見への陣屋移転から、令和3年は廃藩置県から150年となります。

この節目を記念して、博物館では三上藩を紹介するテーマ展（詳細は「けいじばん」をご覧ください）を開催します。

三上藩の歴史を知っていただくことで、野洲の歴史、そして、かつての日本で行われていた地方統治について考えていただく機会となれば幸いです。

（博物館学芸員 齊藤慶一）



写真：『御上神社文書』

右：三上藩時代の文書 享和元（1801）年3月付けの「申渡」 一部  
左：吉見藩時代の文書 明治3（1870）年12月付けの「神祇官へ差出除地等書上写」 一部



## 100歳おめでとう

100歳の誕生日を迎えた堤八重さん（上屋）を栢木市長がお祝いに訪問しました。

大正9年11月9日生まれの八重さんは手先がとても器用で、趣味の裁縫ではよく着物を縫われていたそうです。

また、スポーツでは審判の資格も所持するほどゲートボールが得意で、体力づくりにも率先して取り組まれていたそうです。

当日は、ご家族や親戚の皆さんに囲まれて祝福され、とても喜ばれていました。

いつまでもお元気で。

▼11月9日



## 災害時に備えて

市は、10月27日に京セラ(株)滋賀野洲工場と「災害時における支援協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、万一の災害時における緊急避難場所として事業所が使用可能となり、かつ備品や電源供給の提供も可能となるものです。

災害時に迅速に対応するため、市ではこうした取り組みを今後も進めていきます。